



NAGOYA CITY UNIVERSITY EAST MEDICAL CENTER

初期臨床研修医・後期臨床研修医 研修ガイド

名古屋市立大学医学部附属
東部医療センター



名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター

許可病床数 498床 (令和7年4月)

診療科目

内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、
脳神経内科、血液腫瘍内科、内分泌・糖尿病内科、
感染症内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、
脳神経外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、形成外科、
精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、
耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、
放射線治療科、救急科、病理診断科、麻酔科、歯科口腔外科

病院機能

臨床研修病院、卒後臨床研修評価機構認定病院、
日本医療機能評価機構認定病院(3rdG: Ver.2.0)、
三次救急指定医療機関、地域医療支援病院など

数字で見る東部医療センター

■ 医師数	124人*
■ 初期臨床研修医数	26人*
■ 後期臨床研修医数	34人*
■ 1日平均外来患者数(令和6年度)	1,049人
■ 1日平均入院患者数(令和6年度)	417人
■ 救急搬送件数(令和6年度)	8,050件
■ 手術件数(令和6年度)	5,568件
■ 内視鏡検査件数(令和6年度)	5,818件

*令和7年4月現在



初期臨床研修

● 基本理念 ●

1. 医師としてふさわしい人間性と能力を養う。
2. 医学及び医療の果たす社会的役割を認識する。
3. プライマリ・ケアの基本的な診療能力を身に付ける。
4. 患者を全人的に理解し、尊重するよう努める。

● 基本方針 ●

- 患者の呈する症状、身体的所見、検査所見に基づいた鑑別診断及び初期治療を的確に行える能力を修得する。
- 医療チーム構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調・協力する習慣を身に付ける。
- 患者及び医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付ける。
- 急性期医療を中心として、科学的根拠に基づいた良質な医療を提供するよう努める。
- 医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献する能力を身に付ける。

初期研修の特色

- 1 三次救急病院として救急搬送件数が8,000件以上、豊富な症例をファーストタッチで経験でき、医師としての土台作りに貢献。
- 2 平成27年3月に新しい救急・外来棟を開棟、救急・集中治療部門、手術室がさらに充実。
- 3 臨床研修センターがサポート、適度な規模でアットホームな雰囲気の中で、総合的な知識と技術が習得可能。
- 4 救急症例検討会、抄読会、スキルアップ講座、シミュレータ研修などのプログラムが完備。など

表で見る初期研修プログラム例

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	テオリエンテーション	内科					救急科	麻酔科	外科	選択①	整形外科	産婦人科
2 年次	小児科(西部)	救急科	精神科(名市大)	地域医療	選択②	選択科目						

- 1年目に内科(循環器内科、神経内科、消化器内科、呼吸器内科、内分泌内科、腎臓内科)を24週、外科(消化器外科、整形外科)を8週、選択①(血液内科・感染症内科・乳腺内分泌外科・泌尿器科・心臓血管外科・脳神経外科)を4週、麻酔科、産婦人科、救急科を各4週ローテーションします。
- 2年目に救急部門を4週、小児科、地域医療、精神科、選択②(血液内科・感染症内科・乳腺内分泌外科・泌尿器科・心臓血管外科・脳神経外科・放射線科)を各4週ローテーションします。それ以外は選択科目になります。
- 選択科目は、名古屋市立大学病院、西部医療センターをはじめ研修協力病院・施設にて指導を受けることができます。



良き研修はここにあり! 救急医療で大きな自信を 臨機応変なプログラムでキャリアの土台として最高の研修に

東部医療センターの初期研修の最大の強みは、救急医療の最前線に立ち続けることにより、当院での2年間の研修を乗り越えた後は大きな自信を得ることができるところにあります。指導医の数に対して研修医の定員が適正であり、十分な指導を受けられる体制が整っています。

臨床研修センターでは、研修医に担当指導医を当てるメンター制を導入しており、研修に関する希望、疑問、悩みなどを相談できます。また、臨床研修センタースタッフとともに、スケジュールの調整、労働環

境の整備などを行なっています。プログラムの内容も希望に合わせて調整が可能で、きめ細かい指導を心がけています。

大病院化により多様な指導医が増え、三病院の連携によってこれまで以上に多彩な選択肢が提供できるようになります。当院での研修が皆さんのキャリアの土台として最高に良いものとなるよう、センタースタッフ一同、日々努力して参ります。一緒に頑張っていきましょう。



臨床研修センター長
山田 健太郎 (脳神経内科)
Kentaro Yamada

岩田 恵理子 (2年目研修医)

Iwata Eriko

—東部医療センターを初期研修病院に選んだ理由は何ですか。

三次救急病院として救急から専門診療まで幅広い症例を経験でき、さらに当直後の振り返りなど指導体制が充実している点に魅力を感じました。見学の際には、病院全体の明るい雰囲気や指導医の先生方とのコミュニケーションの取りやすさを実感し、主体的に学び多くの経験を積める環境だと感じたため、東部医療センターを選びました。

—1年目と2年目でローテート科での役割は変わりますか。

2年目ではより主体的に診療に携わり、入院から退院まで主治医として責任を持って患者さんを受け持たせていただきました。患者さんの背景を考えながら治療方針を検討したり、外来や救急での判断の幅も広がり、「自分が主治医である」という自覚が強くなる1年だと感じています。

—後期研修についていつ頃どうやって決めましたか。

1年目の終わり頃から興味のある科での経験を振り返りつつ、指導医の先生方に相談しながら考え始めました。実際には、2年目でのローテーション中に「自分が一番やりがいを感じる瞬間」や「もっと深く勉強したいと思う分野」を基準に決めました。

—初期研修2年間を東部医療センターで過ごした感想を教えてください。

とても恵まれた環境で、医師としての基礎を学ぶことができた2年間でした。忙しい中でも指導医の先生方が丁寧に教えてくださり、同期と互いに支え合いながら学べたことも大きかったです。三次救急病院として、救急から専門診療まで幅広い症例を経験することができ、成長を実感できる研修でした。



—自分で1年目からの変化に気づくことはありますか。それはどんな時ですか。

救急外来で初期判断ができるようになった時や、入院患者さんの治療方針を自分で立てて指導医の先生とディスカッションできた時に成長を実感します。また、1年目には迷っていたことが自然と「次はこれをしよう」と考えられるようになり、少しずつ医師としての判断力が身についたように感じます。

—これから研修先を探すみなさんへアドバイスををお願いします。

見学に行った時の「雰囲気」を大切にしてほしいです。自分がその場所で2年間働く姿が想像できるか、指導やサポートが受けやすい環境かをぜひ確かめてみてください。そして、どの病院でも学びは多いので、自分のペースで成長できる環境を選ぶことが大切だと思います。

市原 和佳 (1年目研修医)

Ichihara Nodoka

—東部医療センターを初期研修病院に選んだ理由は何ですか。

充実した指導体制のもとで救急の研修ができると感じたからです。三次救急病院で、8000件以上もの救急搬送を受け入れており、豊富な症例を経験することができると感じました。また、当直後の振り返りや症例検討会では、先生方にフィードバックを頂きながら、1つ1つの症例に向き合い、学びを深めることができる点がとても魅力的に思いました。

—初期研修医として働いてみて、ギャップはありましたか。

各ローテート科での研修や当直では、指導医や上級医の先生方に親身になって教えて頂き、相談や上申をとてもしやすい雰囲気です。また、動脈採血や縫合など学生の頃よりもできることが増え、楽しく研修を送れています。

—ローテート科ではどんな研修を行っていますか。

上級医の指導のもと、患者さんを受け持ち、病棟管理や処置について学んでいます。他にも外科系の診療科であれば手術に入り、カメラ持ちや真皮縫合などの手技を経験させてもらえます。内科系の診療科であれば、カテーテルや内視鏡検査などの業務に参加でき、経験を積むことができます。研修するうえで自分の希望に沿って指導頂けますし、興味や意向に合った研修が可能です。指導医や上級医の先生方が優しく指導してくださるので、積極的に診療に参加し知識を深めていくことができると思います。

—研修はどのような指導体制で行っていますか。

各ローテート科を約1か月単位でローテートしていきます。各科で上級医や指導医の先生方の指導を受けます。ローテート科での研修以外にも、救急症例検討会や診療科の先生方によるスキルアップ講座、内科のシニアレジデントの先生方によるレクチャーなどがあり、学びの機会がとても多いです。

—当直は月どれくらいありますか。また、どんなことをしますか。

月4～5回程度です。ウォークイン・救急車のどちらの患者さんも1年目の4月からファーストタッチをします。1年目から救急車の症例もファーストタッチすることができるので、多くの経験を積むことができます。1年目の4月から救急車のファーストタッチをするのはとても不安でしたが、上級医や2年次の先生にとっても相談しやすい雰囲気なので安心して診療にあたることができます。また、全症例必ず上級医にコンサルトするという決まりがあるので、体制としてとても安心だと思います。

—東部医療センターを選んでよかったと思うことはありますか。

先生方が優しい方ばかりで指導体制もしっかりしており、各ローテート科や当直後の振り返りなどで様々な症例を深く学ぶことができます。また、勤務時間としては基本的に定時に終了しますし、当直明けも帰るのが原則ですので、プライベートの時間もちゃんと取れるのでバランスよい研修医生活を送れています。



東部医療センターでは、医師免許取得後3～5年目の方を
後期臨床研修医（シニアレジデント）として専門研修プログラムを実施しています。



東部医療センターでは内科・救急科の基幹施設として、専門研修プログラムを提供しています。
自由度の高い実践的な専門研修により、一人ひとりのキャリアゴールに向けて、臨床経験豊富な指導医一同、全力でサポートします。
また、基幹施設となっていない基本領域のうち、東部医療センターは14領域の専門研修プログラムにおいて連携施設となっています。

専門研修プログラムデータ（令和7年4月）

	募集人員	医師数	専門医数	外来数 (1日平均)	入院数 (1日平均)
内 科	10	39	29	437	232
救 急 科	3	6	5	35	4

基幹施設としてのプログラム以外でも、名古屋市立大学病院等の専門研修プログラムの
連携施設として、西部医療センターで専門研修を行うことができます。

内科	小児科	皮膚科	精神科	外 科	整形外科	産婦人科	眼科	耳鼻 咽喉科	泌尿器科	脳神経 外科	放射線科	麻酔科	病理	救急科	リハビリ テーション科	総合診療
●	□	□		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	●	□	□

●：基幹施設 □：連携施設または関連施設





内科専門研修

病院長補佐
前田 浩義

【主な研修施設】

〈基幹相互連携施設〉

名古屋市立大学病院、西部医療センター、
豊川市民病院、海南病院、公立陶生病院

〈地域医療密着型連携施設〉

旭労災病院、知多厚生病院、稲沢厚生病院、
三重北医療センターいなべ総合病院

〈特別連携施設〉

みらい光生病院

【プログラムの特徴】

- 当院を基幹施設として、名古屋市内およびその近郊の医療圏（愛知県尾張・三河、三重県東部医療圏）にある連携施設・特別連携施設における内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるようにします。
- 研修期間は基幹施設1年間以上+連携施設・特別連携施設1年間以上で合計3～4年間になります。
- 心臓血管センター、脳血管センター、内視鏡センターなどとともに、ICU・CCU・HCUを整備して様々な救急疾患に即応できる体制および設備を整えており、豊富な救急症例を経験できます。

【研修生へのメッセージ】

名古屋市北東部医療圏の中心的な急性期病院である当院と、近隣にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。

主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指していただきます。



救急科専門研修

病院長補佐
松嶋 麻子

【主な研修施設】

愛知医科大学病院
藤田医科大学病院
堺市立総合医療センター
一宮市立市民病院
刈谷豊田総合病院
独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院

【プログラムの特徴】

- 救急医療の中心を担う専門医を育成するプログラムです。愛知県では各診療科が救急医療に協力する体制が整っており、そこで救急医に求められるのはすべての救急患者の重症度・緊急度を見極め、必要な診断と初期治療を行い、適切な診療科や医療・介護サービスへ引き継ぐことです。多発外傷や広範囲熱傷、重症中毒など適切な診療科がない場合は、自分で重症患者の診療も引き受けます。これらの能力は今後起こり得る災害の多数傷病者の対応においても大きな強みとなります。
- 東部医療センターの救急科専門医プログラムでは、東部医療センターの研修に加え、連携施設で少なくとも1年間、三次救急を重点的に研修する期間を設け、重症患者の初療から回復期までの診療を学びます。軽症から重症まで、先を見通した救急診療ができるようになることが目標です。

【研修生へのメッセージ】

初期研修の2年間では、救急外来の患者一人一人について重症度・緊急度に応じた対応ができることを目標とします。救急科専門医は救急外来で同時に複数の患者に対し、患者の予後を見据えた初療を行います。時には自分で重症患者の診療を担うこともあり、これらに必要な能力を専門医プログラムで研修します。状況を俯瞰的にみてマネージメントすることが得意な人にお勧めです。



初期臨床研修医・後期臨床研修医の勤務条件

*勤務条件等は令和7年4月現在のものとなります。

Working conditions for
early and late clinical trainees

初期臨床研修医

- 勤務時間 平日8時45分～17時15分
(途中休憩1時間あり)
- 宿日直勤務 有り(宿直後は勤務なし)
- 給料月額 409,600円
- 通勤手当 自動車等又は公共交通機関による
通勤者へ支給あり
- 研究研修費 100,000円／年
- 年次休暇、忌引休暇、夏季休暇などあり

後期臨床研修医 (シニアレジデント)

- 勤務時間 平日8時45分～17時15分
(途中休憩1時間あり)
- 宿日直勤務 有り(宿直後は正午まで勤務)
- 給料月額 548,000円(調整額を含む)
- 緊急呼出業務手当 支給あり
- 通勤手当 自動車等又は公共交通機関による
通勤者へ支給あり
- 研究研修費 200,000円／年
- 年次休暇、忌引休暇、夏季休暇などあり

子育て支援制度

- 院内保育所あり
- 基本保育、延長保育、病後児保育のほか
週2回の夜間保育あり(宿直時の夜間保育料無料)
- 育児休業(無給)、部分休業(無給)、
子の看護休暇(有給)などあり



院内保育所



院内コンビニ



見学などのお問い合わせ先

名古屋市立大学医学部附属 **東部医療センター**

〒464-8547

愛知県名古屋市千種区若水一丁目2番23号

管理課庶務係 臨床研修担当

TEL : 052-721-7171

E-mail : res.emc@med.nagoya-cu.ac.jp

